

送 辞

麗らかな陽気に誘われ、希望に胸膨らむ春の訪れを感じられる季節となりました。このような佳き日に晴れて卒業される二年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心より御祝い申し上げます。

先輩方は一昨年、作新学院大学女子短期大学部に入学し、一人ひとりが選択した新たな進路に向かって日々精進されました。短大で過ごされた二年間という限られた時間の中で、先輩方は嬉しかった経験や楽しかった経験だけでなく、辛い経験をしたり様々な壁にぶつかったりすることもあったでしょう。そして、人生における大きな節目を迎えた今日、心に刻まれた思い出を振り返っていらっしゃるのではないのでしょうか。

2020年以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、授業や実習、行事の幅が制限され続けています。しかし、コロナ禍でも先輩方は学生全員が有意義な経験を得られる形で行事を行っていたように感じました。入学後の私達にとって初めての行事となった、一年生歓迎会ではスタンプの披露を、学外オリエンテーションではクイズや手遊びを、優しく教えてくださいました。制限のある中で、幼児教育科ならではの学びを深めることや、他学年同士の距離を縮めること等明確な目的に向けて工夫し実現することが、より良い保育者に近づく一歩にもなっていたと考えます。何も分からない私達でしたが、心から楽しむことができた上に学校生活への期待と先輩方への憧れの気持ちを誰もが強く持ったことでしょう。

その後も数々の行事が開催されましたが、やはり例年通りに行けなかったり企画していたことも出来なくなってしまうということがありました。先輩方から学びを得る機会が減ったこと、交流を深める機会が減ったことを非常に残念に思いますが、最も悔しい思いをしていたのは先輩方だったように見えました。そのような苦しい状況に屈することなくいつも私達に、保育者を目指す者としての姿勢や団結力を見せてくださいました。その背中を見て私達も、一年生にとって憧れの存在になるという目標実現のために努力して参ります。

先輩方は今日から、二年間を過ごした作新学院大学女子短期大学部を旅立たれてそれぞれの進路へ進むことでしょう。これからも、楽しいことだけでなく苦しいこともあると思いますが、この学舎で吸収した知識や経験等の学びが心強い味方になってくれるはずです。大きな壁にぶつかった時には、二年間の思い出や友人の存在、そしてお世話になった先生方の言葉を思い浮かべてどうぞ前を向いて進んでください。在校生一同、先輩方の思いを受け継ぎこの学校の発展に貢献出来るよう努めて参る所存です。今後とも私達在校生を、温かい眼差しで見守ってくださると嬉しく思います。

最後となりますが、先輩方皆様の御健康と益々のご発展を心からお祈りし、送辞とさせていただきます。

令和四年三月二十日

作新学院大学女子短期大学部

在校生代表

野澤結花

